



# 石神井南中学校 学校だより

令和 2年度 第 7 号  
発行日 12月25日(金)  
練馬区立石神井南中学校  
校長 田邊 克宣

## 「 2学期を終えて 」

校長 田邊 克宣

師走に入りめっきり寒くなりました。8月24日の暑い最中から始まった少し長い2学期も終わり、今年も残すところ後わずかとなりました。

思い返せば今年の今頃は、まさかこのような一年になろうとは誰も想像だにしていなかったことでしょう。コロナウイルスの一種が、変異をしながら今なお世界中で猛威を振るう中、それのもたらした影響は、人々の日々の生活から年中行事、仕事や学校等々、我々を取り巻く有形無形のあらゆる物事に及んでいます。そうした中、本校でも6月からの段階的再開を果たしてから今日に至るまで、生徒たちが変わらぬ元気な様子で毎日を過ごしてきたことに、頼もしさを感じます。一つには、物事の受け取り方に対する子供たちの柔軟性の高さがあると考えます。例えば10月の運動会では、規模・内容共に例年と異なるものであったにも関わらず、精一杯、皆が一生懸命な姿勢で臨み、大成功を収め、一人一人が心の中に大きな達成感を残したことからもうかがえます。

さて、3月の一斉休校からコロナウイルス対策に翻弄されたこの10ヵ月間は、ある意味、学校全体が一致団結して過ごした1年でした。

検温とマスク着用から始まり、手指消毒や換気等の徹底が求められる一日は、生徒にとっても教職員にとっても、今までに経験したことのない生活パターンです。何を、どのように、どこまでやればよいのかも明確でないまさに五里霧中の中、知恵を出し合い、情報共有に努め、大人も子供もやるべきことを皆でしっかり守る、そうした行動を継続することで、ここまで無事に過ごしてこられたのであると考えます。

これまで普通であったことが、ある時突然、普通でなくなる。そうした状況下で、人はどうあるべきか。

先日、オリンピック・パラリンピック教育の一環として、パラ卓球の日本代表選手である吉田信一氏をお招きし、学年ごとに、ご講演と実技指導をしていただきました。国際大会で数々の優勝を果たし、リオデジャネイロ大会の日本代表として参加された氏の言葉は、前向きで、意欲に溢れ、勇気と元気をもらえました。最後に、生徒からの挨拶の際、代表である3年生の学級委員長が、相手と視線を合わせるために両膝を床についてお礼を述べたことに、正直、驚きました。誰かに教えられたのでなく、相手に礼を尽くす、人としての自然な所作こそ、礼儀を具現化したものであると、感服した次第です。

3年生は受験を控え、緊張もあるかと思いますが、礼儀作法は気持ちの表れだと理解できれば、面接で変に固くなることなく、それぞれの実力を発揮することができます。落ち着いて、準備万端整えて、本番に備えましょう。2年生は、実質的に学校のリーダーとしての振る舞いが求められてきます。1年生は、中学生らしさがだいぶ身に付いてきました。それぞれ、来年の大きな抱負をもって新年を迎えてください。

人はいざという時に試される。今回はその時が長く続いています。命を守ることを念頭に、皆が健康に過ごすために、一人一人が気を付けた行動をとっていきましょう。

この一年、保護者、地域、教職員で手を携えて、子供たちを共に育ててこられました。皆様の大きなご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。